

書陵部紀要(第一号~第二九号) 所載正倉院關係論文目錄

書陵部紀要第一号~第二九号に掲載された正倉院關係の論文を、内容別に分類して次に掲げる。執筆者名の下の「」内は紀要の号数、「」内は発行年月である。例えば(二七・三)は昭和二七年三月発行の意である。なおこのほかに、同紀要には毎号正倉院年報と題する事業報告が掲載されているので、併せて参照されたい。

総記

- 正倉院古裂銘文集成(一)、(二)結 松島 順正 (二、三) (二七・三、二八・三)
- 正倉院はいかに守られたか 和田 軍一 (七) (三一・六)
- 献物帳所載の御物と現存品について 松島 順正 (同) (同)
- 正倉院御物銘文集 松島 順正 (同) (同)
- 正倉院年表 松本 包夫 (同) (同)
- 昭和二八~三〇年正倉院御物材質調査 大賀一郎外 (八) (三二・三)
- 正倉院宝物残材調査報告 松島 順正 (二九) (五三・三)
- 木村 法光
- 建築
  - 正倉院校倉屋根内部構造の原形について 浅野 清 (七) (三一・六)
  - 正倉院密陀絵調査報告 北村大通・山崎一雄・木村康一 (四) (二九・三)
  - 上村六郎・亀田 孜
  - 南倉和琴の所謂瑠璃画について 林 謙三 (七) (三一・六)
  - 瑠璃画の復原について 林 謙三 (七) (三一・六)
  - 南倉和琴の瑠璃絵の技法 松村 政雄 (七) (三一・六)
- 金工
  - 正倉院御物金工品の調査報告
  - 正倉院御物「鏡」の製作技術の研究 内藤 春治 (五) (三〇・三)
  - 正倉院御物金工品の技術的研究 鈴木 信一 (五) (三〇・三)
  - 白銅鏡の製作工程に就いて——

漆工

- 正倉院御物研究報告書 山脇 洋二 (五) (三〇・三)
- 正倉院御物金工品の彫金的調査 後藤 年彦 (五) (三〇・三)
- 正倉院御物の技術的調査報告書 三井 安蘇夫 (五) (三〇・三)
- 主として鍍金(鍍起・打出)について——
- 正倉院の御物鏡について 梅原 末治 (七) (三一・六)

正倉院漆漆品調査報告(上、下)

松田権六・吉野富雄・溝口三郎  
北村久造・岡田 謙

(九、一)(三三・三、三四・一〇)

楽器

- 昭和二三・二四年度正倉院楽器調査概報 長芝 祐三 泰 (二) (二六・三)
- 昭和二五・二六年度正倉院楽器調査概報 滝芝 遠祐 一 泰・長屋 謙三 (二) (二七・三)
- 昭和二七年度正倉院楽器調査概報 同 (三) (二八・三)
- 和琴の形体の發育経過について 林 謙三 (一〇) (三三・一〇)

武具

- 調査報告 正倉院十鞍について 鈴木 治 (二四) (三七・一〇)

調度

- 正倉院の屏風について 松島 順正 (二八) (五二・三)

薬物

- 正倉院宝庫の薬物 渡辺 武 (七) (三一・六)

- 正倉院宝庫の裏衣香(えびこう)について 渡辺 武 (二八) (四一・一一)

服飾

- 正倉院の衣服について 松島 順正 (二四) (四七・一一)

染織

犀円文錦について 太田英藏〔七〕(三一・六)

正倉院御物の模様染について 明石国助〔八〕(三一・三)

正倉院錦綾に見る特異技法の一考察 (一) (二) (三) 佐々木信三郎

〔九、一〇、一一〕(三三・三、同・一〇、三四・一〇)

上代裂の染色に関する化学的研究 (一) (二) (三) 上村六郎 豊

〔一一、一四、一九〕(三四・一〇、三七・一〇、四二・一一)

上代裂の染色に関する化学的研究 (四) 高木 豊〔二一〕(四五・三)

正倉院の綾 西村兵部〔二二〕(三五・一〇)

正倉院の錦

概説 太田英藏〔二三〕(三七・三)

組織 佐々木信三郎〔二四〕(三七・三)

各説 西村兵部〔二五〕(三七・三)

正倉院龍纈の版型について 松本包夫〔二六〕(四九・三)

正倉院の織維類について 布目順郎〔二七〕(五〇・二)

花樹双鳥文綾について 松本包夫〔二八〕(五二・三)

文書

戸籍より見た大宝前後の継嗣法 今江広道〔五〕(三〇・三)

——特に庶人の嫡子について——

所謂「陸奥国戸籍」残簡について 今江広道〔九〕(三三・三)

所謂「陸奥国戸籍」残簡調査概報 岸俊男〔一〇〕(三三・一〇)

所謂「伊予国正税帳」について 早川庄八〔一一〕(三七・三)

正倉院蔵礼服礼冠と国家珍宝帳 栗原治夫〔一二〕(四五・三)

二月堂災上と文書・聖教の出現 堀池春峰〔一三〕(四五・一一)

正倉院北倉の出納関係文書について 柳雄太郎〔一七〕(五一・二)

経卷

聖語藏 成実論卷十一年点 天長五 訳文稿 鈴木一男〔一六〕(三一・三)

成実論卷二十二天長五年点 鈴木一男〔八〕(三一・三)

題名調卷形式より見た聖語藏大智度論について 松本包夫〔七〕(三一・六)

聖語藏五月一日経の筆者と書写年代その他 (一) (二) (三) 松本包夫

〔一五、一六、一七〕(三八・一〇、三九・一〇、四〇・一〇)

正倉院聖語藏点本 鈴木一男〔二八〕(五二・三)

(柳雄太郎編)